会ビラカロン支部創立50周年記念式典並に
NA KENJIN DO BRASIL DE V.CARRÃO COMEMORAÇÃO DE 50 ANIVERSARIO DA FUNDAÇÃO E KEIROKAI

□□□

"*Tanomoshi*" da AOVC formado na gestão do presidente Yoshiharu Chibana, possui 16 anos de história e conta atualmente com mais de 200 participantes divididos em 12 grupos que se reúnem uma vez a cada mês. Consiste numa importante fonte de receita em prol da associação

頼母子講の仲間たち

　頼母子講の果たした役割もまた大きい。縫製下請け業、１～２年過ぎると技術面も段々と手捌きが速くなり、毎週の手取り金も増えて、「住宅購入資金」として頼母子講に賭けていた。

　カロン地域での頼母子講は、すでに戦前あるいは戦後初期移民の先輩たちが始めていた。再移住者が加入するには２名の保証人が必要で、定款で厳しく義務付けられていた。

　頼母子を落札しても保証人がサインしない限りは金を受け取る事はできなかった。ビラ・カロン地域は、ウチナーンチュとは言え、至る所からの寄り集まりなので、お互いに信用度も未だ浅く、確かな保証人がいないと信じて受け入れてくれなかった。それは発起人としては当然の事だと理解していた。

　そこで再移住者同士が結集して頼母子講を興し、お互いに保証の交換をしあい加入してく自分たちの頼母子講を創り出した。そして永くその地に居住し何の問題も無くスムーズに生活して行くうちに、先輩移民からの信用度も高まり、どこの頼母子講も仲間として受け入れてくれた。

　年数が経つに連れ、お互いに頼母子を将来の事業資金として積み立てていた。毎週日曜日になると、多いときには６～７カ所に配り届けていた。

　だが、インフレが狂乱化し始めると、頼母子を下ろし財産として土地、建物、経済的価値の高い物件に投資していた。将来子供たちが結婚して独立すると働き手が少なくなるし、何時迄も下請け業を続けていられないと悟り、誰もが将来は何かの事業を興す事を望み、志を高め奮い立たせていた。

　お互いに何事においても融通し、助け合っていた。また少しでも多く収益を上げるために他人よりも長く働いていたし、「一日も早く人並みの生活を送りたい、ボリビアで苦労して遅れた分を取り戻したい」という向上心があったからだ。再移住者たちは、前向きに熱意に燃えていた。

ビラ・カロン支部の事業家頼母子講

　知花良治支部長時代（２００３～２００６年）に支部運営のための資金調達を試み、その件に関する具体的対処を求めるために特別なミーテイングを開くことになった。ある会員から「頼母子講のようなグループを構成したらどうだろうか」、という案が提出された。

　いわゆる会員の中の友人同士の行動に移る案であった。その時に生まれたのが「ＡＯＶＣ事業主並び友人頼母子グループ」の月例会である。

　募金や懸賞に参加すること以上に毎月の会合は、実に団結心を深め、皆が集まると日々のことを話し合い、ＡＯＶＣの活動や独自のビジ

ビラカロン沖縄県人会創立６０周年記念式典
Comemoração do 60º aniversário de fundação

□□□